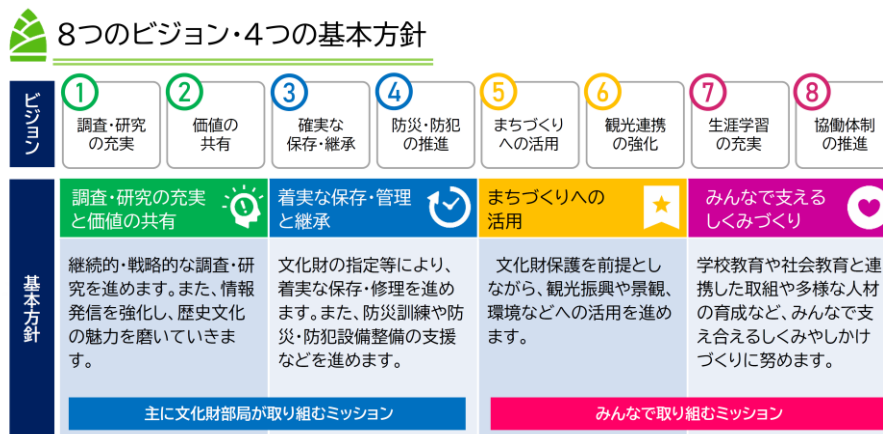


長岡京市文化財保存活用地域計画（前期期間）における措置の進捗状況について

1 計画の趣旨について

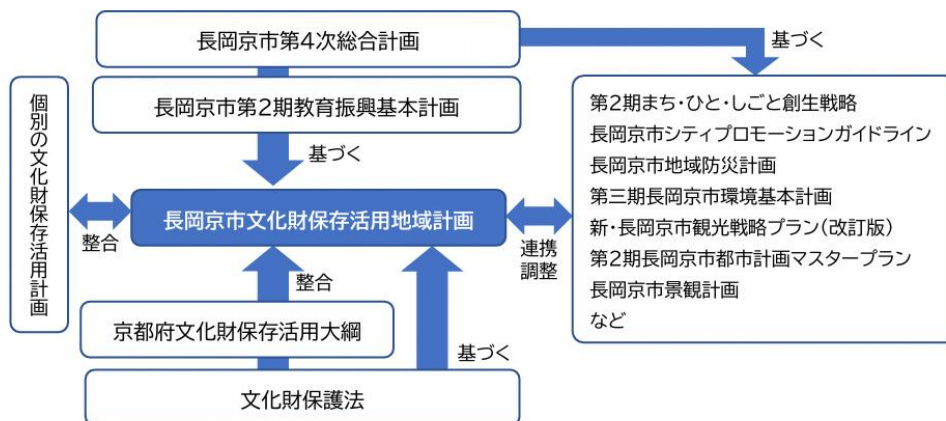
平成30年の文化財保護法の改正により、計画的・継続的な文化財の保存・活用を進めるための「文化財保存活用地域計画」が法定化されたことを受け、長岡京市では「長岡京市文化財保存活用地域計画」を作成し、令和4年12月に文化庁の認定を受けました。

本市の地域計画では、令和4年、市制施行50周年を迎え、これまでの本市の歩みを振り返りながら、歴史文化を「ものがたり」として明らかにし、それらを構成する文化財を大切に未来へ継承するため、総合的・計画的な取組を進めていく指針を定めました。



2 地域計画の位置づけ

本市では、平成28年度から令和12年度を計画期間とする「長岡京市第4次総合計画」のなかでも、歴史文化は西山の緑・水や良好な町並みなどととも“うるおい資源”として位置付けられています。第4次総合計画第2期基本計画の後期実施計画及び「長岡京市第2期教育振興基本計画」では、「総合的な文化財保存活用の推進」を掲げ、郷土への理解や愛着を深めながら、次世代に着実に歴史文化を継承するため、文化財をより身近に感じる取組や適切な保存・活用を進めることとしています。



3 地域計画の検証・点検について

長岡京市文化財保存活用地域計画では、計画期間を「長岡京市第4次総合計画」や「第2期教育振興基本計画」に合わせ、令和5年度から令和12年度の8年間としています。

令和7年度は、第4次総合計画第2期基本計画が終了する年度であり、令和8年度から始まる第3期基本計画との連携が取れるよう事業成果の検証・点検を行います。

令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度
長岡京市文化財保存活用地域計画								
前期			中期			後期		
			▲検証・点検		▲検証・点検			▲検証・検討
長岡京市第4次総合計画								
第2期基本計画				第3期基本計画				
長岡京市第2期教育振興基本計画								
			▲中間見直し					

4 長岡京市の文化財の保存と活用に関する措置の進捗状況

地域計画の第6章に記載する「長岡京市の文化財の保存と活用に関する措置」の前期間（令和5年度～令和7年度）において、50の措置の進捗状況は別紙「長岡京市文化財保存活用地域計画 措置進捗状況一覧表（令和5年度～令和7年度）」のとおりです。

今回「未実施」と評価した2件の措置については、中期以降に取り組む措置として位置付けています。しかし、前期間終了時点において、事業内容に合致する具体的な取組みには至っていないため「未実施」との評価をしています。一方で、中期以降の取組みとして位置付けられている措置のうち、前期から事業内容に合致する具体的な取組みを実施できたものについては、「実施中」として評価しています。

全 体	措置数	実施中	未実施	備考
	50	48	2	
1-(1)調査・研究の充実	7	5	2	未実施項目 措置 NO.5/NO.6
1-(2)文化財の価値の共有	9	9	0	
2 着実な保存・管理と継承	11	11	0	
3 まちづくりへの活用	11	11	0	
4-(1)人材育成	4	4	0	
4-(2)協働による歴史文化のまちづくり推進	8	8	0	

5 リーディングプロジェクトの進捗状況および今後の展開

本計画に定める50の措置のうち、様々な主体による連携を促し、計画全体を横断的に関連付け、相乗的な効果が期待できるものをリーディングプロジェクトと位置づけています。その中でも特に、前期期間（令和5年度～令和7年度）の3年間に重点的に取組んだ内容は下記のとおりです。

【措置 NO.8】（仮称）長岡京市ふるさと資料館の整備

歴史文化情報の発信起点として、また、まちなか博物館ネットワークの中心拠点として機能する歴史資料展示室を、市役所新庁舎に整備し、市民等が文化財に身近に触れられる場の整備を進めます



歴史資料展示室イメージ

<前期の取組内容>

- ・令和5年度から検討を進め、基本計画、基本設計と計画的に進めてきました。
- ・令和7年度は、実施設計の確定や展示什器の製作を実施しています。
- ・令和7年11月には展示室の愛称募集を行い、「長岡京市まちなかミュージアム れきしる長岡京」に決定しました。

<前期の取組みによる効果>

基本計画の策定にあたっては、市民の意見を取り入れるためパブリックコメントを行い、その意見を反映しました。基本計画をもとに、基本設計・実施設計・展示什器の制作など施設の完成に向けて、着実に事業を進めることができました。

展示室の愛称募集では、全国から547件の応募をいただく結果となり、歴史資料展示室の認知度向上に向けたPRとして成果を得ることができました。「長岡京市まちなかミュージアム れきしる長岡京」という名称が決定したことで、これからオープンする歴史資料展示室に親しみやすさを持っていただく結果となりました。

<今後の展開>

歴史資料展示室の整備にあたり、基本計画から実施設計、製作に至るまで、計画的に進行しており、令和8年12月のオープンに向けた準備を着実に進めています。

今後も、オープンに向けた企画展などの準備を着実に進めるとともに、さらなる広報活動を強化するほか、オープン後の運営を見据えた体制づくりを進めていきます。

令和8年度のオープン後は、歴史文化の魅力発信の起点とし、市内の歴史文化や個々の文化財を大きな枠組みとして捉え、市内一円を使って歴史文化の魅力に触れられる「まちなか博物館ネットワーク」の中心拠点として機能させ、具現化していきます。

【措置 NO.18】 国史跡乙訓古墳群の公有化と整備・維持管理

乙訓古墳群保存活用計画に基づき、史跡の公有化とともに、公有化した史跡の整備を進めます。また、適切に維持管理し、さらなる活用についても検討します



井ノ内稲荷塚古墳

<前期の取組内容>

- ・井ノ内稲荷塚古墳の一部公有化（477㎡）を行いました。
- ・恵解山古墳公園をはじめ、乙訓古墳群の保存と活用を目的として、維持管理事業を継続的に実施しました。
- ・長法寺南原古墳の史跡活用を視野に入れた民間サウンディング調査を実施しました。

<前期の取組みによる効果>

井ノ内稲荷塚古墳については、公有化した部分をはじめとした古墳全域の史跡整備・活用に向けて、令和5年度～7年度に発掘調査を実施しました。また、各年度に現地説明会を実施し、発掘調査の成果を知っていただくことにつながりました。（参加者累計：174人）

長法寺南原古墳においては、民間サウンディング調査を通じて、史跡活用の可能性を探る取組みを実施し、古墳の保存だけでなく、その活用に向けたアイデアを民間事業者から得る機会を創出しました。

これまで、国史跡乙訓古墳群のうち市域の古墳については、継続的な維持管理を通じて古墳の保存状態を良好に保っています。

特に、恵解山古墳においては、来訪者が安全かつ快適に古墳を親しむことができるよう、環境整備を計画的かつ継続的に実施し、文化財の保存と活用の両立を着実に進めることができました。

一方で、前期期間では「乙訓古墳群保存活用計画」の策定まで至ってはいませんが、計画の在り方や構成要素など京都府との協議により、その方向性を明確にしました。

<今後の展開>

今後は、長岡京市域における乙訓古墳群の整備・活用の基準となる「乙訓古墳群（長岡京市域）保存活用計画」を策定するため、検討委員会を立ち上げるとともに、関係機関や土地所有者との協議を行っていく予定です。

「乙訓古墳群（長岡京市域）保存活用計画」策定後は、史跡の公有化とともに、本計画に基づき、公有化した史跡の整備を進めていきます。

また、乙訓古墳群を活用したイベントや展示を通じた情報発信、また SNS 等を活用した広報活動により、地域の歴史的資源としての価値をさらに高めていきます。

【措置 NO.32】周遊サイン等の整備・多言語化

まちなか博物館ネットワークを充実させるため、周遊を促す案内板等サインの整備及び説明板の多言語化を進めます



乙訓寺説明板の更新

<前期の取組内容>

- ・「7つのものがたり」の紹介や市内文化財の日本語音声ガイドを作成しました。（文化財保存活用推進会議作成）
- ・市内の寺社や文化財関連施設の英語の音声ガイドが作成されました。（乙訓商工・観光協議会作成）
- ・市内の文化財説明看板の更新を行いました。

<前期の取組みによる効果>

令和7年度に長岡京市文化財保存活用推進会議が実施した音声ガイドと連携した謎解き周遊事業において、有名声優による日本語音声ガイドを作成しました。本事業には2,000名の参加があり、これまで長岡京市に接点のなかった人や歴史文化に関心の薄かった人など、新たな文化財ファン層の獲得につながりました。「聴く文化財」として視覚だけではない文化財の魅力を発信する新しい可能性を探る機会となるとともに、歴史情報のマルチチャンネル化を図れたことで市内一円を大きな博物館と見立てる「まちなか博物館ネットワーク」の構築に向けた取組みとなりました。

英語の音声ガイドについては、乙訓地域を訪問する外国人旅行者の満足度向上につながる環境整備のひとつです。現時点で外国人旅行者が多い地域ではありませんが、今後、外国人旅行者が市の歴史文化や寺社について理解を深める一助となることが期待できます。


<今後の展開>

歴史資料展示室を拠点とした新たな周遊コースの造成に向けて、観光部局や観光ガイド団体と使用料条例連携を進めます。これにより、地域の歴史文化を広く発信し、観光客や市民がより深く長岡京市の魅力を体感できる環境を整備します。

案内板や文化財説明板の修繕・新設に際しては、統一的なデザインを採用することで周遊コースの認知度を向上させるとともに、地域全体で統一感のある文化財情報提供の仕組みを構築します。また、文化財情報のアクセス向上を図るため、音声ガイドやその他のデジタル技術の積極的な活用についても検討していきます。

【措置 NO.50】財源確保のための取組推進

ふるさと納税やクラウドファンディング等を活用した、文化財の保存・活用のための財源確保に向けた取組を進めます



ふるさと納税返礼品

＜前期の取組内容＞

- ・長岡京市観光協会と連携し、長岡京市のふるさと納税の返礼品として歴史資料集成「写真でふりかえる長岡京市」の進呈を開始しました。
- ・文化財所有者によるクラウドファンディングを活用した文化財の保存修理が行われるなど、資金調達の新たな手法が確立されました。

(クラウドファンディング活用事例)

- ・楊谷寺 阿弥陀堂屋根修繕
- ・光明寺 宝物庫改修

＜前期の取組みによる効果＞

歴史資料集成を返礼品として活用することで、長岡京市とこれまでに縁のある方や関心を持つ方に市の魅力や歴史的価値を広く知っていただき、長岡京市のファンを増やすことが期待されます。ふるさと納税サイトに返礼品として掲載することで、本市の歴史文化に関する書籍を全国に向けて効果的にPRすることが可能となりました。

また、市内の文化財所有者が実施したクラウドファンディングでは、資金調達のみならず、個々の文化財の重要性を全国に周知する契機となり、文化財保護への関心を高める効果を得ることが出来ました。

＜今後の展開＞

今後は、市の共感型ふるさと納税とも連携した取組を実施していきます。こうした取組のほか、地域の歴史的価値を発信する広報活動や資金調達の方法をさらに工夫することで、市の文化財の保存・活用を持続的に支える財源確保の仕組みを構築できるよう検討を行います。

また、クラウドファンディングの取組みが促進されるよう、引き続き、文化財所有者に働きかけを行っていきます。

6 前期の総括

文化財保存活用地域計画の前期期間では、50の措置のうち、48の措置に該当する取組を実施してきました。これらの取組により、長岡京市の歴史文化を広く発信し、市民の理解と関心を深め、地域の歴史文化の魅力を再認識していただく機会を多く創出しました。特に、地域文化財を活用したイベントや広報活動を通じて、市民の文化財への理解と関心が着実に深まりました。

中期期間に向けて、50の措置をさらに推進していくためには、これまでの成果を基に、各措置の内容をさらに掘り下げることで、より具体的かつ効果的な施策を展開する必要があります。

7 中期に向けて

計画が中期に入る令和8年度は、歴史資料展示室のオープンを迎えます。この展示室は、市民に加え、市外からの来訪者に対しても地域の歴史文化の価値を共有し、その魅力を伝える重要な拠点となります。

展示室のオープン後は、これまで調査・研究を進めてきた地域の歴史文化に関する資料や考古資料を活用し、魅力的な企画展の展開を行っていきます。また、企画展のテーマと連動した歴史講演会や文化財所有者と連携した文化財の公開事業等の取組を展開することで、市内に点在する歴史文化や文化財を大きな枠組みで一体的に捉える「まちなか博物館ネットワーク」の具現化を目指します。また、長岡京市第4次総合計画第3期基本計画において、「まちなか博物館ネットワーク事業」と掲げ、50の措置をさらに推進していく予定です。

【参考】長岡京市第4次総合計画 第3期基本計画 実施計画名称（案）について

実施計画名称	まちなか博物館ネットワーク事業
事業概要	れきしる長岡京を中心施設として、まち全体を博物館と見立て、市内に点在する文化財やその周辺環境をより良い形で保全しながら、展示・公開に供し、それらをつなぐ「まちなか博物館ネットワーク」の形成を進めます。
指標	まちなか博物館主要施設の来場者数